

Ⅲ. 資 料 編

Ⅲ-1 シンポジウム事項書（当日配付）

Ⅲ-2 シンポジウム来場者アンケート

Ⅲ-3 シンポジウム・ポスター

鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センター設立記念シンポジウム

地域で稼ぐ

地方創生・グローバル化と起業・人材育成の未来

(三重県高等教育機関魅力向上支援補助金事業)

日時／2016年3月12日 13:00-16:00

会場／鈴鹿大学

プログラム

- 13:00 開会（開会挨拶／市野聖治・鈴鹿大学学長）
- 13:05 趣旨説明
- 13:10 （講演1）高校生起業家の見る世界
仲田 洋子 氏（カッシーニ 株式会社 代表取締役兼 CEO）
- 13:40 （講演2）あるものさがし 人口減少、グローバル化と地域からの挑戦
岡本 栄 氏（伊賀市長）
- 14:10 （講演3）夢古道おわせの挑戦と人材育成
伊東 将志 氏（株式会社熊野古道おわせ 支配人）
- 14:40 休憩
- 14:50 パネルディスカッション・会場との質疑応答
パネリスト／仲田氏、岡本氏、伊東氏、市野学長
ファシリテータ／渡邊聡・鈴鹿大学講師
- 16:00 閉会（閉会挨拶／高嶋重次・鈴鹿大学副学長）

司会／ 前澤いすず・鈴鹿大学短期大学部助手

主催 鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センター

後援 三重県、三重県教育委員会、鈴鹿市、鈴鹿商工会議所、中日新聞社

開催趣旨

少子・超高齢化、グローバル社会の到来により、地域の自立的な経済力、すなわち新しい価値を創造する「なりわい起こし＝起業力」、さらにはそこから中長期的に収益を生み出すような「稼ぐ力」を、地域が生み出していくことが重要になります。

今回のシンポジウムでは、鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センター設立を記念し、鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センター設立を記念し、若者のロールモデルの発信に取り組まれている「高校生起業家」の仲田洋子氏、「インバウンドによる地域づくり」に取り組まれている伊賀市長の岡本栄氏、「地域からのなりわい起こしとひとづくり」に取り組まれている伊東将志氏をお招きし、地域において稼ぐ力を生み出すヒントを探ります。地域が稼ぐ力をどうつけていくのか、さらには地域における人材育成と大学の役割を、ご来場の皆様と一緒に考えます。

ゲスト紹介



仲田 洋子 氏（カッシーニ 株式会社 代表取締役兼 CEO）
中学生のとき、沖縄の次世代リーダー発掘・育成プロジェクト「Ryukyufrogs」に最年少で選抜される。2015年5月にカッシーニ株式会社を設立。自社メディア「ROLEMODEL okinawa」をはじめとして、地元沖縄の若者たちの選択肢を広げていくための事業を展開中。



岡本 栄 氏（伊賀市長）
早稲田大学教育学部卒業。1974年アナウンサーとして関西テレビへ入社。2012年9月までアナウンサーとしての活動と並行しながら神戸女子大学および帝塚山大学の非常勤講師を務めた。2012年11月伊賀市長就任。



伊東 将志 氏（株式会社熊野古道おわせ 支配人）
三重県尾鷲市出身。1992年尾鷲商工会議所経営指導員となり、地元企業の経営支援に携わる。2007年商工会議所が中心となり設立した(株)熊野古道おわせに出向、夢古道おわせの運営に挑む。2013年(株)熊野古道おわせ支配人に就任。

鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センター設立記念事業

アンケート結果

参加者数 73 人、アンケート回収枚数 29 枚

1 所属

	人数	%
一般	18	62.1
鈴鹿大学学生	7	24.1
鈴鹿大学短期大学部学生	1	3.4
学園関係者	1	3.4
未記入	2	6.9

2 性別

	人数	%
男性	19	65.5
女性	9	31.0
未記入	1	3.4

3 年代

	人数	%
20 歳以下	9	31.0
21～30 歳	4	13.8
31～40 歳	2	6.9
41～50 歳	1	3.4
51～60 歳	9	31.0
61 歳以上	4	13.8
未記入	0	0.0

4 お住まい

	人数	%	備考	() 内は人数
鈴鹿市	10	34.5	その他内訳	
津市	6	20.7	松阪市 (3) 四日市 (2) 久居 (1) 尾鷲市 (1)	
その他	13	44.8	伊勢市 (1) 紀北町 (1) 伊賀市 (1) 鳥羽市 (1)	
未記入	0	0.0	紀宝町 (1)	

5 このシンポジウムは、どのように知りましたか（複数回答あり）

	人数	%	備考	() 内は人数
ホームページ	2	6.9	その他内訳	
新聞折込	1	3.4	県庁にあったチラシ (1)	
駅張りポスター	0	0.0	知人 (1)	
大学関係者の案内	18	62.1	県教委からの案内メール (1)	
その他	8	27.6	メール (1)	
未記入	1	3.4	未記入 (4)	

6 参加した理由

	人数	%	備考	() 内は人数
起業に関心があった	9	31.0	講師内訳	
講師の講演を聞いたかった	12	41.4	伊東氏 (3) 仲田氏 (2)	3名全員 (2) 未記入 (5)
その他	7	24.1	その他内訳	未記入 (7)

7 講師に関する感想

	7-①仲田氏		7-②岡本氏		7-③伊東氏	
	人数	%	人数	%	人数	%
とてもよかった	17	58.6	16	55.2	19	65.5
よかった	9	31.0	12	41.4	9	31.0
普通	0	0.0	0	0.0	0	0.0
あまりよくなかった	1	3.4	0	0.0	1	3.4
よくなかった	0	0.0	1	3.4	0	0.0
未記入	2	6.9	0	0.0	0	0.0

8 パネルディスカッションに関する感想

	人数	%
とてもよかった	13	44.8
よかった	10	34.5
普通	2	6.9
あまりよくなかった	1	3.4
よくなかった	0	0.0
未記入	3	10.3

9 これからの大学にご要望などはありますか（複数回答あり）

	人数	%	備考	() 内は人数
新学部等の設置	2	6.9		
公開講座の充実	8	27.6	新学部の例	
その他	10	34.5	幼児教育 (1)	
未記入	11	37.9	ビジネス研究科 (大学院) 政治・経営など (1)	

その他内訳

[一般]

- 津市街地などでの出張講座の実施
- 中部のMRJを含む技術集積エリアの大学として中部エリアの企業技術を高めることを視野に入れた大学を創るべき
- 図書館、食堂の地域への開放。住民との交流などがあれば。
- 具体的に地域興しに関わる
- 奨学金はちゃんと返還できているのでしょうか？見直しは学生自身どう思っているか？追せき調査は？どの程度？アルバイトに追われていないか？
- 民に開かれた大学。市民向け講座。例えば、歴史、IT (web について、HP・Facebook 作り方とか)、社会学・心理学などの入門講座とか
- 地域連携の取組、県内でのインターンシップの充実、(注) 現状を知りませんので、一般論として記載させていただきました。

[鈴鹿大学学生]

- もっといろんな形でこの大学の魅力を多くのひとに伝えていった方が良いと思う。
- トレーニング器具を増やし部活強化、体力作り

[鈴鹿大学短期大学部学生]

- 施設の充実、整備

10 今回の事業全般または地域での起業について、ご意見があれば、お書きください。

[一般]

- 地域で起業するということが自体が他の企業との差別化になるためポジティブに捉える若い企業家が増えてくるのではないかと思います
- 今後の期待をしております
- 地域での起業の根底には地域への思いがあるということ。地域での起業は地方創生につながるという確信。
- 鈴鹿大学の学生さんが県内(県外でも)大いに活躍して三重県の活性化につながってほしいと思います。すばらしい講演ありがとうございました。
- 小さな自治会との協働が大学としてできないでしょうか
- シルバービジネスが先行している中…。何か新しいもの…。
- 自身が中小企業の一社員で、企画・営業なのですが、特に伊東さんのお話が胸にのこりました。確かに人材不足で求人を出していますが、中々集まりません。「仕事の魅力」を確かにきちんと伝えられていなかったとすごく思いました。また、いろんな事業を行う、企画する上での人材の育成について大変ためになるお話が聞けて良かったです。
- 関係者に誘ってもらわなければこのことを知らずに終わってしまうところでした。ありがとうございました!!

[鈴鹿大学学生]

- 今すぐには思っていないのですが、自分が今一番挑戦したいことが終わったら、地方で起業したいという思いが増しました。

11 その他、ご自由にお書きください。

[一般]

- メールで参加申込をしましたが、申込受付の返信がなく不安になりました。他の大学が実施している同様のイベントの運営を参考にされると良いと思います。
- 司会の方はもう少しはっきりと話してください。
- 良い取り組みです。講師陣もよく考えて集めていただきました。鈴鹿大学期待します。
- 学生は私たちが考えているより(私たち世代より)もっと早い年令で大人になっているのではないかと私たち大人が子ども扱いしすぎているのではないかとかわせる講座をありがとうございました。
- 鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センター設立おめでとうございます。いつかは「ビジネス・イノベーション研究科」が出来ることをお祈りいたします。地元の

大学でビジネススクールがある事って、すばらしく意味があると思います。パネルディスカッションのコーディネーターの方、“ヘタ”。すみません。

[鈴鹿大学学生]

- ありがとうございます。
- とても自分のためになった。
- 最近では社会問題に対する企業の取組が注目されている中で、企業だけでなく行政もそれに向き合い、取り組んでいることを改めて、聞くことができうれしく思いました。大学ももっと取り組んでいくべきだと思いました。
- 学部を増やしてほしい。体育学部を作してほしい。

[鈴鹿大学短期大学部学生]

- 3人の貴重なお話が聞いて良かったです。地域を良くしようという思いがとても伝わりました。パワーを感じました。ありがとうございました。

シンポジウム終了後の風景



三重県高等教育機関魅力向上支援補助金・採択事業

平成 27 年度
地域のビジネス・イノベーションを推進する
起業家・起業マインドをもった人材の育成
報告書

報告書作成・編集

中谷恵子 高見啓一 前澤いすず 堤秀紀 渡邊聡

発行年月日

平成 28 年 3 月 30 日

制作

鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センター

発行

学校法人享栄学園 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部